

本書の願い

● ICLS コースと指導者養成ワークショップの誕生！！

2004年の臨床研修の必修化をめざして、2002年より日本救急医学会では、臨床研修医に求められるライフサポートの基本的能力を身につけるコースを構築してきました。こうしたコースとしては、AHA (American Heart Association) のACLS (Advanced Cardiovascular Life Support) コースが有名です。しかし、AHAのACLSは、すべての研修医に修得してもらうには荷が重く、内容的にも循環管理に特化しすぎているのではないかと考えられたのです。そこで、従来より、わが国のなかで1日コースとして構築されてきた二次救命処置のためのコースを基礎コースとし、より蘇生に特化した形で構築したのが**ICLS (Immediate Cardiac Life Support) コース**です。ICLSコースという名称は2004年から用いましたが、委員会ではその前からこのコースを標準化するとともに、当初はコースを自ら主催し、同時に指導者養成ワークショップを開催して指導者養成を行ってきました。第1回のICLSコースは2002年10月10日に、第30回日本救急医学会総会・学術集会期間中に札幌で開催しました。また、第1回**指導者養成ワークショップ**は、2003年4月13日に、大阪大学で開催しました。このコースの参加者から、多くの指導者が生まれて、各地で指導的な役割を果たしています。ICLSコースが普及した背景には、登録認定システムが整備されたことと、コースガイドブックが出版されたことが大きく寄与しています。指導者養成ワークショップの登録認定システムも整備されましたが、指導者養成ガイドブックについては出版が遅れました。本書は、その意味で、ICLS指導者の育成に大きな役割を果たすことが期待されます。

● 本書がめざすもの

本書が何をめざしたらよいか、編集会議で、熱く議論されました。ICLSコースで教えあい、学び合うためのワークショップは、各地で、さまざまなニーズに応じて、草の根的に開催されています。そのなかには、さまざまな工夫がこめられてきました。本書は、こうした草の根的に育ってきたものをリセットして、ワークショップの形態を規定する意図で作成されたものではありません。むしろ、ICLSが広く普及して育ってきた、**学習者中心の考え方**や、**チーム蘇生**につながる学びの場の考え方を整理して明確にし、より力強い展開を促したいという願いのもとで作成されたものです。そこで**各地のワークショップの資料**を提供していただき(巻末 参考にさせていただいたICLS指導者養成ワークショップ資料を参照)、きらりと光る内容

を探し、中に盛り込むことに腐心しました。また、最新の学習科学の考え方や、ワークショップで培ってきた内容がどのように整合するかも本書の重要な目玉です。したがって、本書は、項目に沿って逐次教えればICLSコースのインストラクションができる文字通りのマニュアルや、絵に描いたようなスーパーインストラクションを提示するようなものではありません。従来、培ってきたワークショップの内容を整理するとともに、教え学びあうとはどのようなことを聞いかけ、成長していく指導者の糧になることをめざしています。また、そのようなワークショップを運営するノウハウもまとめました。本書が、**単なるマニュアルではなく**、とどまることなく歩み続け、楽しみながら開拓をしていく水準の高い指導者をめざす皆さんの、血となり肉となることを、あるいはビタミンとなることをめざしています。

● ワークショップの位置づけ

指導者養成ワークショップは、インストラクターコースそのものではありません。ICLSコースのインストラクターを何回か経験すれば、インストラクターとしては、慣れてきて安定した指導ができるようになるものです。このような安定した、あるいは手はずの整った指導が早くできるようにすることが必ずしも理想の姿ではありません。そこが、指導者養成ワークショップと命名した由縁であり、単なるインストラクターコースではないという意図があります。したがって、ワークショップを通じて、ワークショップ参加者が何らかの新しい概念に触れて、ICLSコースに携わる者として、新たな姿勢や考え方を得ることが重要です。指導者養成ワークショップでは、こうした概念的な要素を、盛り込むことが求められています。そのような意味で、本書は、もちろん**ワークショップの手引き**ともなるものです。例えば、概念的な要素は、用語にもこめられています。やさしい言葉遣いの用語でも、概念的な意味合いがこめられていて、とてもすっきりとした理解や、意味深なヒントを見出すことも稀ではありません。ワークショップとは、そのようなヒントや導きをもたらす場であるというのが、編集者たちが共有しているワークショップの位置づけです。

日本救急医学会ICLSコース企画運営委員会
ICLS指導者ガイドブック編集委員会